

兵特振会報

発行:兵庫県特別支援教育振興会
会長:柏 由紀夫
事務局:〒673-1421
加東市山国2006-107
兵庫県立教育研修所
兵庫県立特別支援教育センター内
TEL (0795) 42-3449
FAX (0795) 42-5393

すべての人が輝く共生社会の実現をめざして
～新たな一歩のはじまり～

兵庫県特別支援教育振興会副会長 小俵 千智
(兵庫県特別支援教育諸学校長会長)



障害者権利条約批准から10年、今、時代の流れや社会情勢の変化が加速化しています。

昨年5月、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へと移行しました。これを機にマスク着用が日常であった学校の教育活動に笑顔や活気が戻ってきました。コロナ禍で活用が進んだICT等による学びを継続しながら、これまで制限されてきた体験的な学習も充実する、新たな一歩がスタートした実感があります。

さて、このたび国においては、昨年6月、第4期教育振興基本計画が閣議決定されました。コンセプトは「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」です。ウェルビーイングは聞きなれない言葉かもしれませんが、心身ともに満たされた状態を表す概念です。

次に、県は、国の動向を踏まえ、第4期ひょうご教育創造プランを策定します。いつの時代においても教育に必要とされるもの(=不易)を基本としつつ、これからの5年間の重点テーマ(=流行)については、『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力の育成」と掲げられました。各学校園においても、来年度以降の取組の指針としていただきたいと思います。

また、このプランにもとづき、兵庫県特別支援教育第四次推進計画を策定します。これまでの成果と課題を踏まえ、共生社会の実現に向けて、実効性のある取組が進むことを切に願います。

さらには、令和6年には、①障害者差別解消法の改正(4月)により、民間事業者においても合理的配慮の提供の義務化 ②障害者雇用促進法の改正(4月)により、法定雇用率が2.3%から2.5%へ引き上げ、③5月には、世界パラ陸上選手権大会が神戸ユニバ記念陸上競技場で開催されるなど、社会全体で、障害のある人と障害のない人が共に学び、共に活躍する社会を創りあげようと機運が広がっていることに希望を感じます。

最後に、こういった社会の変化に応じて、私たち一人一人が何をするのか、そこが一番大切なことではないでしょうか。他人事ではなく、わが事として、時代に応じて、子どもに応じて、状況に応じて、障害の有無をとわず、すべての子どもたちの豊かな未来のために、柔軟な発想で何ができるかを問い続けていきたいと考えています。

本振興会 各部会の活動紹介

啓発活動部会

令和5年度 自立・理解推進会議



講演の様子

令和5年度自立・理解推進会議は、「豊かな生き方を支える社会を目指して」をテーマとし、伊丹市の東りいたみホールにて12月15日に開催されました。

県立阪神昆陽特別支援学校より「社会的・職業的自立を目指す生徒を育てるために」と題して実践報告がありました。同校は、職業科の特別支援学校であり、「働く人になる」という目標と、高等学校との交流及び共同学習で社会性を学ぶことに関する取組についての発表でした。後半は、県立リハビリテーション

中央病院子どものリハビリテーション睡眠発達医療センター長の菊池清先生をお招きし、「睡眠障害の正しい理解と不登校の問題について」ご講演いただきました。現在、子どもたちは眠りを妨げる環境下で暮らしている。そのため、睡眠不足と体のリズムの乱れが生じ、不登校の危険性が高まると話されました。①眠る（睡眠の質・量・タイミング）②食べる（栄養の質・量・タイミング）③動く（遊ぶ）④手本を知る（大人の姿）⑤安心できる（居場所・達成感）。この「子育ての5原則」が大事であり、家族だけではなく教育と医療・福祉関係の連携が必要なのだという事、また、睡眠障害の原因から治療、そして改善についても具体的でわかりやすくお話いただきました。

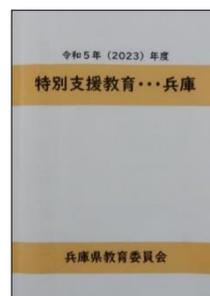
今回は、阪神間の地域を中心に県下のさまざまな地域から、教員、保護者、行政・福祉関係機関の方々など、100名を超える参加者がありました。「特別支援教育の理解と認識を促し、障害のある幼児児童生徒の社会参加と自立の促進を図る」という本会議の趣旨に沿った会となりました。

【藤原 香織 （兵庫県立阪神昆陽特別支援学校 副校長）】

調査研究部会

「特別支援教育…兵庫」の発行

県内の特別支援学校等の紹介冊子として「令和5(2023)年度特別支援教育…兵庫」を作成し、各学校園等に配布しました。



進路開拓部会

研究協議会

令和5年度も2回の研究協議会を実施しました。第1回研究協議会は、令和5年8月4日(金)兵庫県立のじぎく特別支援学校で50名の参加を得て実施しました。まず、兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター 多機能型事業所あけぼのの家 課長 森 一人様より「幼児期・学齢期からの職業教育」～就労支援の現場から～という演題でご講演いただきました。長年にわたる就労支援のご経験から、在学中に幼児期から段階的に身に付けてほしい事など具体例を挙げて説明いただきました。卒業後も含め、生涯を見据えた指導の重要性を再確認することができました。その後、課題別の分科会を実施し、日頃の進路指導での課題について、情報交換をおこないました。

第2回研究協議会は、令和5年12月8日(金)神戸市総合教育センターで62名の参加者を得て開催されました。この会では、兵庫県中小企業家同友会の会員様もご参加いただきました。まず、社会福祉法人 明石市社会福祉協議会 総合相談支援室権利擁護支援課 明石市基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センター センター長 後藤 謹武様より「学校と社会との連携について」という演題でご講演いただきました。福祉行政の仕組みと現状について丁寧にご説明いただきました。そして、なにより後藤様の福祉に対する篤い思いが伝わってくる講演で、私たちも改めて初心に帰り進路指導に取り組みたいと決意を新たにしました。その後、障害種別による分科会を実施し、障害の特性による進路の問題点について理解を深めました。今回の研究協議会では、行政・労働・学校と、それぞれの立場の関係者が一堂に会して情報共有することができ、大変貴重で有意義な機会となりました。



中小企業家同友会 挨拶



後藤様 講演

【小山 真永 (兵庫県立のじぎく特別支援学校 教諭)】

進路開拓部会

兵庫県高等学校進路指導研究会
特別支援学校部会との合同部会(見学会)

本年度は、令和5年11月2日(木)に、「グローリー株式会社(本社)」および「グローリーフレンドリー株式会社」を見学しました。グローリー株式会社は通貨処理機のリーディングカンパニーとして国内はもとより海外100か国以上に製品とサービスを幅広く提供しています。また、グローリーフレンドリー株式会社は、グローリー株式会社の特例子会社として1999年に設立され、本社の委託を受けて「社内清掃」「書類の仕分・配送」「部品のピッキング」「廃棄物の処理・管理」など、主に本社内で幅広い業務を担っています。

今回の見学会には県内28校の特別支援学校の進路指導担当者37名と県特別支援教育振興会より2名の、計39名が参加しました。初めにグローリー株式会社総務本部の村田様とグローリーフレンドリー株式会社社長の大山様より会社概要についてお話しを頂き、その後4班に分かれて社内見学を行いました。両社は同じ敷地内にあり、様々な部署で障害者が活躍しています。見学後の質疑応答では「障害種別の雇用状況」「求める人物像」「実習や採用計画」などについて積極的な質問が多く出されて、大変有意義な見学会となりました。



概要説明の様子



社内見学の様子

【井村 博 (兵庫県立姫路聴覚特別支援学校 教諭)】

当振興会関係団体 活動報告のコーナー

兵庫県特別支援学校肢体不自由教育研究協議会

第 50 回連合キャンプについて

『みんなが輝いた、第 50 回連合心理療育キャンプ！！』

コロナ禍以前は3泊4日で実施していた『兵庫県連合心理療育キャンプ』が、令和5(2023)年8月2～4日(教員は1日～4日)に日帰りではありますが、尼崎市立あまよう特別支援学校を会場として4年ぶりに実施することができました。

兵庫県特別支援学校肢体不自由教育校長会が主体となり、昭和46(1971)年に第1回が実施され、その後も継続し、今回で記念すべき『第50回』を迎える歴史あるキャンプです。全国的にも、校長会が主体となるこのような公的なキャンプは例がありません。

この連合キャンプは、動作学習や集団生活を行う中で、①参加幼児児童生徒が身体の動きを主体的に改善・克服するために、必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基礎を培う。②集団生活や社会性の向上を培う。③教職員や保護者の研修の場とする。④参加者及び参加家族相互の交流の場とする。ことなどを目的としており、まさに教育活動全般や自立活動と密接に関連があります。これらの意義と効果を理解しているからこそ、校長会を中心とした組織でこれまで続けていると言えます。

第50回のテーマを、再開できる喜び、これまで支えてくださった方々への思いと50回続いてきたことへの感謝、今後も続いてほしいという願いを込め、『つなげよう未来へ ふれあい つながる こころとからだ』としました。終了後、保護者



動作学習の様子

の方から、「子供の成長を見ることができた。力の入れ方がわかりかけている。姿勢が良くなった。親としても勉強になった。きょうだいにとっても、良かった。とても暖かい空間だった。」などの感想が聞かれました。また他の参加者からも「有意義な3日間だった」など素敵な感想が多く聞かれ、一人ひとりが良い体験や成果を感じることができ意義あるキャンプであったと実感しました。

トレーニーとトレーナーの「こころとからだ」が、そしてキャンプに参加してくださった全ての皆さんの「こころとこころ」が、ふれあい、つながった、温かいキャンプになりました。



開会式

【兵庫県特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長 小寺 英樹
(尼崎市立あまよう特別支援学校 校長)】

兵庫県特別支援学校陸上競技連盟

第6回兵庫県特別支援学校陸上競技大会

令和5年10月9日(月)、明石公園陸上競技場(きしろスタジアム)において「第6回兵庫県特別支援学校陸上競技大会」を開催しました。令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大会が中止となることがありました。その後、大会運営における感染防止、安全面の見直しを行いながら、徐々に参加校、参加生徒も感染拡大前の規模に戻り、今年度は県下の特別支援学校14校と卒業生を合わせ、136名の選手にご参加いただきました。



4×100mリレーの様子

今大会では、9つの個人種目に加え、4×100mリレーを3部門(男子・女子・混成)に分けて実施しました。当日は好天に恵まれ、参加選手にとっては練習の成果を発揮する絶好のコンディションとなりました。全種目を通して4つの大会記録が生まれ、その他にも自己記録を更新する選手が多く、活気ある大会となりました。

兵庫県特別支援学校陸上競技連盟では、毎年、年間3つの大会を開催しており、回を重ねるにつれ、学校の枠を超えて選手同士が交流する様子が多く見られるようになりました。異なる学校の選手同士が一緒にウォーミングアップを行ったり練習方法などの意見交換をしたりする様子が印象的でした。

また昨年度より卒業生の参加募集を再開しました。先輩方がそれぞれ日々の生活を送りながら陸上競技を楽しく続けている姿を見る機会にもなり、生徒にとっては特別支援学校を卒業した後の自分たちの姿を思い描く機会にもなっているように感じます。

今後も、より多くの生徒がそれぞれの力を発揮できる場を作っていくとともに、陸上競技に取り組むことが生徒一人一人のより豊かな生活につながるよう取り組んでいきたいと思ひます。



50m走の様子



ソフトボール投げの様子

【兵庫県特別支援学校陸上競技連盟 理事長 坂上 勝洋
(兵庫県立姫路特別支援学校 教諭)】

兵庫リハビリテーション心理研究会

「みんなで学ぼう！広げよう！心と身体をつなげる動作法！！」というテーマの元、多くの人と一緒に動作法を学び、動作法の良さを再認識、再確認することを目的として対面での参加を主とし、令和5年6月25日(日)加古川市総合福祉会館にて、第38回大会を開催しました。

『特別支援教育と福祉における動作法の魅力について ～兵庫県内の取り組みから～』をテーマに司会を兵庫教育大学 石倉 健二 教授、パネリストとして明石市教育委員会主幹兼特別支援教育係長 高田 善彦 氏、一般社団法人マザーリーフ代表 二星光代 氏、ニチイ学館社員 森實 一志 氏、にご参加頂き、シンポジウムを実施しました。シンポジウムには56名の参加があり、福祉・教育・当事者と多面的に動作法についてのご意見をいただき、改めて動作法の重要性や必要性について再認識することができました。

また、動作法実技講座として、動作法入門講座、動作法経験者講座の2つの講座を設け、入門講座には18名、経験者講座には15名の参加があり、動作法未経験の方、経験のある方とそれぞれの立場で実技を通して動作法の学びを深めて頂く機会となりました。コロナ禍以降、実技を通して研修できる場所が少なかったことから、参加された方から、やはり動作法は体験することが大切だと実感しました、との感想を頂きました。

4年ぶりに実施したトレーニーの会には、4名のトレーニーの方の参加があり、それぞれの情報交換やボッチャを行いました。参加されたトレーニーの方からは、お互いの親交を深めることができて良かった、との感想を頂きました。

今回の大会では、動作法の重要性や必要性和共に、人と人をつなげていく動作法の魅力についても再認識、再確認することができた大会になったと感じています。



シンポジウムでの様子



実技研修での様子

【兵庫リハビリテーション心理研究会 第38回大会マネージャー 山田 優一郎
(姫路市立書写養護学校 主幹教諭)】

令和5年度 賛助金・寄付金納入者ご芳名（順不同、敬称略）
ご協力ありがとうございました。

（令和6年2月26日現在）

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課
兵庫県立教育研修所有志
公益財団法人 神戸新聞厚生事業団
淡路市立小中学校 16校
洲本市特別支援教育研究協議会
南あわじ市立小中学校
丹波篠山市小学校長会
兵庫県立視覚特別支援学校
兵庫県立神戸聴覚特別支援学校
兵庫県立姫路聴覚特別支援学校
神戸大学附属特別支援学校
兵庫県立西神戸高等特別支援学校
兵庫県立阪神特別支援学校
兵庫県立芦屋特別支援学校
兵庫県立こやの里特別支援学校
兵庫県立阪神昆陽特別支援学校
兵庫県立高等特別支援学校
兵庫県立北はりま特別支援学校

兵庫県立氷上特別支援学校
兵庫県立東はりま特別支援学校
兵庫県立姫路特別支援学校
兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校
兵庫県立西はりま特別支援学校
兵庫県立出石特別支援学校
兵庫県立出石特別支援学校みかた校
兵庫県立和田山特別支援学校
兵庫県立のじぎく特別支援学校
兵庫県立上野ヶ原特別支援学校
兵庫県立神戸特別支援学校
三木市立三木特別支援学校
小野市立小野特別支援学校
加西市立加西特別支援学校
西宮市立西宮支援学校
三田市立ひまわり特別支援学校
明石市立明石養護学校
姫路市立書写養護学校

沖汐 守彦
古賀 健二
村井 和幸
和田 孫博
木南 佐織

紅山 修
北 稚佳子
中山 陽斗
山根 愛恵
三輪 幸輝

川口 清一
藤崎 智子
戸山 健

他

（ご了承いただいた方のみ お名前を掲載しています）

【編集後記】

研修所にもやわらかな日ざしが差し込むようになりました。ほころび始めた梅の花に、春の訪れを感じます。

このたび、多くの皆様のご協力をいただき、会報第86号を発行することができました。心より感謝申し上げます。今号では、コロナ禍が明けて以来、各関係団体が工夫と調整を重ねながら活動を再開したり、またその中で、子どもたちが自分の持てる力を発揮して、いきいきと活動したりしている様子もお伝えできたことをとても嬉しく思っております。

今後とも、本振興会へのさらなるご支援をよろしく願いいたします。